

2020年度

# 明治学院共通科目ガイダンス

【グローバル法学科を除く全学科用】



主催：明治学院大学 教養教育センター

## 1. 大学カリキュラムの基礎知識

明治学院大学のカリキュラムは、教養教育センターが中心となって提供する科目群（明治学院共通科目）、学部・学科が提供する科目群、教職課程が提供する科目群から成り立っています。

### (1) 明治学院共通科目

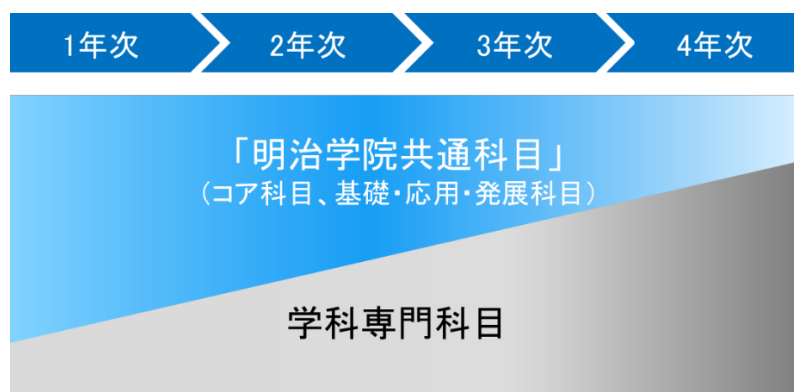
教養教育センターと学部・学科が協力して、全学部・全学科生を対象に提供している科目群

### (2) 学科科目・学部共通科目

各学部・学科が、主としてそこに所属する学部・学科生に提供している科目群

### (3) 教職科目

教職課程が、教育職員免許状の取得を希望する学生に提供している科目群



## 2. 「明治学院共通科目」について

### (1) 人材養成上の目的・教育目標

明治学院共通科目による教養教育は、世界に生起する諸問題について、他者との共生をめざし柔軟かつ誠実に対処することのできる市民的教養を有する人材の養成を目的としています。そしてその実現のために、言語系科目と諸領域科目の教育が連携し、多様な思考力と表現力を養成するための総合的な教育を推進しています。

言語系科目の教育においては、コミュニケーション能力の向上と言語を育んできた自他の文化への理解を深め、自律的な学修態度を身につけることを教育目標としています。また、諸領域科目の教育においては、専門的知見の修得を通して、問題を的確に理解するための読解力や分析力、問題解決のための多面的な思考力を身につけることを教育目標とします。

### (2) 期待される学修成果

学生は、所定の単位を修得することにより、次の態度、知識、能力を身につけることが期待できます。

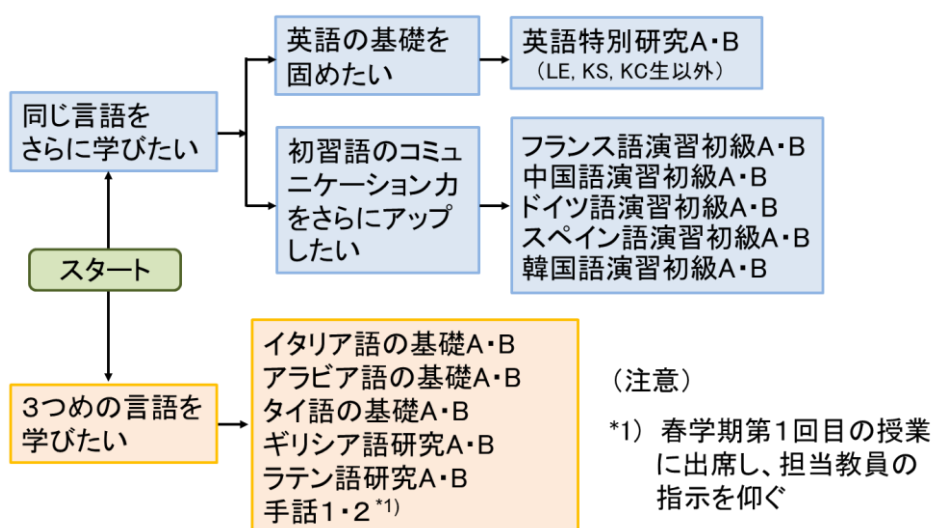
- 1) 建学の精神を理解し、多様な価値観を尊重しつつ、社会参加を通して他者への貢献を志向する態度
- 2) 幅広い学問分野の基礎知識を有し、現代社会が抱える諸問題に対して多面的に捉え、的確に価値の判断を行う能力
- 3) 自ら発見した課題について、幅広い知見に基づいて、その解決策を適正かつ明確に提示する能力
- 4) 他者とのコミュニケーションに必要な能力を身につけ、生涯にわたってそれを伸展させるための自律的学修をつづける態度

(3) 教育課程の編成および実施に関する方針

明治学院共通科目は「言語系科目群」と「諸領域科目群」から構成されています。また、それぞれの科目群において、「基礎・応用・発展」のレベルを設定することにより、順次的・体系的な学修を促進できるように科目を編成しています。

1) 言語系科目群：

英語・フランス語・中国語・ドイツ語・スペイン語・ロシア語・韓国語・イタリア語・アラビア語・タイ語・ギリシア語・ラテン語・日本語・手話を学ぶことができます。各言語によるコミュニケーション能力の向上と、その言語を育んできた文化を理解するための科目群です。基礎から応用段階まで各言語の自律的学修が可能となるようにカリキュラムが組まれています。上級者向けの発展的科目や異文化理解・多文化理解のための科目も多く設置されています。



言語系科目履修のためのフローチャート

2) 諸領域科目群：

人文学系、社会科学系、自然科学系、情報処理系、健康・スポーツ科学系、総合教育系の各科目群から構成されています。演習形式の発展的科目や交換留学生と一緒に英語で学ぶ科目※ などもあり、現代世界が直面している諸問題に対処するための総合的教養を身につけることができる様々な科目が設置されています。

※交換留学生と一緒に英語で学ぶ科目

- ・ MGINT201～206 Japanese Arts and Culture 1～6
- ・ MGINT211～216 Japanese History 1～6
- ・ MGINT221～226 Japanese Society 1～6
- ・ MGINT231～234 Multilingualism and Multiculturalism 1～4
- ・ MGINT241～244 Current Issues 1～4

これらの科目の履修を希望する学生は一定以上の英語力を持っている必要がありますが、横浜で開講される科目は1年次生でも履修できるように工夫されています。興味のある人は積極的に履修しましょう。なお、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加して教員から履修許可を受けてください。

■明治学院共通科目 開講科目一覧

必修科目・選択必修科目	基礎科目		応用科目	発展科目
	コア科目	キリスト教の基礎A・B		
言語系科目	情報処理系科目	コンピュータリテラシー1・2		
	英語	英語コミュニケーション1A・1B・2A・2B		
	フランス語	フランス語1A・1B・2A・2B	フランス語3A・3B・4A・4B	
	中国語	中国語1A・1B・2A・2B	中国語3A・3B・4A・4B	
	ドイツ語	ドイツ語1A・1B・2A・2B	ドイツ語3A・3B・4A・4B	
	スペイン語	スペイン語1A・1B・2A・2B	スペイン語3A・3B・4A・4B	
	ロシア語	ロシア語1A・1B・2A・2B	ロシア語3A・3B・4A・4B	
	韓国語	韓国語1A・1B・2A・2B	韓国語3A・3B・4A・4B	
	日本語	日本語1A・1B・2A・2B	日本語3A・3B・4A・4B	
	言語系科目	英語		英語特別研究A・B 英語研究1A・1B・2A・2B・3A・3B
フランス語		フランス語演習初級A・B	フランス語研究1A・1B・2A・2B フランス語演習中級A・B	フランス語研究3A・3B・4A・4B
中国語		中国語演習初級A・B	中国語研究1A・1B・2A・2B 中国語演習中級A・B	中国語研究3A・3B・4A・4B
ドイツ語		ドイツ語演習初級A・B	ドイツ語研究1A・1B・2A・2B ドイツ語演習中級A・B	ドイツ語研究3A・3B・4A・4B
スペイン語		スペイン語演習初級A・B	スペイン語研究1A・1B・2A・2B スペイン語演習中級A・B	スペイン語研究3A・3B・4A・4B
ロシア語			ロシア語研究1A・1B・2A・2B	ロシア語研究3A・3B・4A・4B
韓国語		韓国語演習初級A・B	韓国語研究1A・1B・2A・2B 韓国語演習中級A・B	韓国語研究3A・3B・4A・4B
言語の基礎		イタリア語の基礎A・B アラビア語の基礎A・B タイ語の基礎A・B		
西洋古典語研究		ギリシア語研究A・B ラテン語研究A・B		
手話		手話1	手話2	
選択科目	外国文化論科目	ヨーロッパ言語圏の文化入門1~6 ヨーロッパ言語圏の文化各論1~6 アジア言語圏の文化入門1~4 アジア言語圏の文化各論1~4		
	留学生関連科目	集中日本語1A・1B・2A・2B 実践日本語初級A・B	日本語研究1A・1B・2A・2B・3A・3B 集中日本語3A・3B・4A・4B 実践日本語中級SA・SB・WA・WB 実践日本語上級SA・SB・WA・WB	集中日本語5A・5B
	人文科学系科目群	哲学史1・2 倫理学入門1・2 論理学概論1・2 言語科学の基礎1~4 心理学入門1・2 教育学の基礎1・2 芸術学の基礎1・2 日本文学概論1・2 日本文化論入門1~4	聖書の世界1~4 キリスト教の思想と文化1~4 宗教史1~4 現代社会とキリスト教1~4 哲学各論1・2 科学思想1・2 倫理学各論1~4 伝統論理学1・2 現代論理学1・2 心理学各論1~4 芸術学各論1~6 日本文学講読1~4 日本文化特論1・2	
	社会科学系科目群	法学1・2 政治学1・2 社会学理論の基礎1・2 文化とメディアの社会学入門1・2 生命とアイデンティティの社会学入門1・2 環境とコミュニティの社会学入門1・2 社会福祉学1・2 経済学1・2 統計学1~4 人文地理学入門1・2 文化人類学入門1・2 社会科学概論1~4	歴史学1~6 歴史学の世界1・2 人文地理学1~6 文化人類学各論1・2	
	自然科学系科目群	数学入門1・2 数学1~4 物理学入門1~3 物理学方法論A・B 化学入門1・2 化学方法論A・B 生物学入門1・2 生物学方法論A・B 生命科学入門1・2 生命科学方法論A・B	数学特論1・2 現代の物理学1~3 物理学特論 現代の化学1~4 現代の生物学1~5 生物学特論 生命科学各論1~3 生命科学特論	
	情報処理系科目群		コンピュータリテラシー研究1A・1B・2A・2B 情報科学1~4	
	健康・スポーツ科学系科目群	健康科学概論1・2 スポーツ科学概論1・2 スポーツ社会学概論1・2 スポーツ方法学1~4 シーズンスポーツ研究1A・2A・3A	トレーニング科学理論・実習1・2 バイオメカニクス理論・実習1・2 シーズンスポーツ研究1B・2B・3B	
	総合教育系科目群	現代世界と人間1~6 現代社会と教養1・2 多文化共生入門1・2 グローバルシチズンシップ入門1・2 明治学院研究1 現代平和研究1~3 環境学各論1~4 サステイナビリティ学1~4 ボランティア学入門1~4 グローバル社会と市民活動入門1・2 ボランティア・市民活動論(国内) 1A ボランティア・市民活動論(海外) 2A アカデミックライティングの基礎 ライフデザイン1 キャリアデザイン1 日本の社会と文化1A・1B・2A・2B・3A・3B 異文化コミュニケーション研究A・B オルガン実習1	多文化共生各論1~4 グローバルシチズンシップ各論1~4 明治学院研究2・3 グローバル社会と市民活動1・2 ボランティア・市民活動論(国内) 1B ボランティア・市民活動論(海外) 2B ボランティア・市民活動実習(国内) ボランティア・市民活動実習(海外) アカデミックライティング演習1・2 ライフデザイン2~4 キャリアデザイン2 スタディーツアー1~4 Japanese Arts and Culture1~6 Japanese History 1~6 Japanese Society 1~6 Multilingualism and Multiculturalism 1~4 Current Issues 1~4 オルガン実習2	ボランティア・市民活動研究(国内) ボランティア・市民活動研究(海外) アジア・日本研究A・B ヨーロッパ文化圏研究A・B 現代科学研究A・B 現代社会研究A・B
	短期・中期留学認定科目	ヨーロッパ研究(短期留学) イギリス研究(短期留学) スペイン研究(短期留学) ドイツ研究(短期留学) フランス研究(短期留学) アメリカ研究(短期留学) カナダ研究(短期留学) 韓国研究(短期留学) 中国研究(短期留学) オセアニア研究(短期留学) 東南アジア研究(短期留学) アメリカ研究(中期留学) 基礎1~6	アメリカ研究(中期留学) 応用1~6	アメリカ研究(中期留学) 発展1~6
	海外インターンシップ関連科目	海外インターンシップ課題研究A・B	海外インターンシップA・B	

※必修科目や履修可能な科目は所属学科によって異なります。各自「履修要項」で確認してください。

### 3. 「仮想コース」について

明治学院共通科目は、自身の興味・関心にしたがって所定のルールの範囲内で自由に履修することができますが、関連する科目を有機的に履修することにより、学修に幅や深みをもたせることができます。その **理想的な履修の「モデル」**として、各テーマに沿った「仮想コース」（「持続可能な社会コース」・「アジア地域研究入門コース」・「Do for Others とボランティア・市民活動コース」・「多文化共生コース」）が設定されています。なお、この4つの「仮想コース」の中から何か1つを必ず選ばなければならない、ということではありません。

#### (1) 「持続可能な社会コース」

##### 1. コースのねらい

環境問題の重要性について認識している人は多いと思います。中学校や高等学校の授業で、地球環境の問題について学んできたかもしれません。では、「持続可能な社会」というとき、考えるべき対象は環境問題だけでよいのでしょうか。グローバル化の進展に伴って、社会全般の持続可能性が問われるようになってきました。環境問題はもちろんのこと、食料、教育、健康といった、社会生活全般にわたる持続可能性が試されているのです。こうした諸問題に取り組むには、自らが地球市民であるという視点に立ち、持続可能な社会を形成するために何をすべきかを考えることが求められています。「持続可能な社会コース」では、次世代を担うみなさん自身が、これまで誰も直面したことのない社会問題について対処できるような思考力・判断力を身につけることを目標とします。

##### 2. 当該コース科目群を構成する主要科目

- ・サステナビリティ学1・2
- ・グローバルシチズンシップ入門1・2
- ・グローバルシチズンシップ各論1・2
- ・環境学各論1・2
- ・生命科学各論1・2
- ・健康科学概論1・2
- ・スポーツ科学概論1・2
- ・現代科学研究A・B

##### 3. コース科目群のカリキュラム・マップ

「サステナビリティ学1・2」を中心に、配当年次に合わせていつでも履修可能

	基礎	応用	発展
自然科学系 科目群		生命科学各論1・2	
健康・スポーツ 科学系 科目群	健康科学概論1・2 スポーツ科学概論1・2 スポーツ社会学概論1・2 スポーツ方法学1・2・3・4	トレーニング科学理論・実習 1・2 バイオメカニクス理論・実習 1・2	
総合教育系 科目群	サステナビリティ学1・2 グローバルシチズンシップ入 門1・2 環境学各論1・2	グローバルシチズンシップ各 論1・2	現代科学研究A・B 現代社会研究A・B

## (2) 「アジア地域研究入門コース」

## 1. コースのねらい

「アジア地域研究入門コース」は、アジアに生きる市民を育てるための試みです。アジアを学ぶための授業を中心としながら、実際に国内外のアジアに触れるプログラムも用意されています。アジアに属する日本社会もまた学びの対象となります。

日本の社会には海外に出自を持つたくさんの人々がいます。私たちの大学にも多くのアジア出身留学生がいます。日本人はすでにアジアの人々とともに生活しているのに、相互の理解は十分に深まっているとは言えません。日本人もまたアジアの一員にほかなりませんが、アジア人であるという意識は案外希薄です。このコースを取ることによって、ひとりでも多くの明学生が、アジアをよく知り、アジアの豊かな文化的多様性を理解し、相互の違いを認め合い共に歩むことのできる市民となってほしいと願っています。

## 2. 何をどんなふうに履修すればいいの？

下記の表は、アジアを学ぶための科目を目的別、レベル別に配置した「カリキュラム・マップ」です。ぜひ時間割を組む際の参考にしてください。

	基礎	応用	発展
アジアのことばを学ぶ	中国語 1・2 中国語演習初級 韓国語 1・2 韓国語演習初級 日本語 1・2	中国語 3・4, 中国語研究 1・2 中国語演習中級 韓国語 3・4, 韓国語研究 1・2 韓国語演習中級 日本語研究 1～3	中国語研究 3・4 韓国語研究 3・4
多様なアジアを知る	アジア言語圏の文化入門 キリスト教の基礎 日本文学概論, 日本文化論入門 明治学院研究 1 アジア言語圏の文化各論	キリスト教の思想と文化, 宗教史 現代社会とキリスト教 日本文学講読, 日本文化論特論 歴史学, 歴史学の世界, 人文地理学 明治学院研究 2・3	アジア・日本研究
アジアのドアを開ける	多文化共生入門 ボランティア学入門, グローバル社会と市民活動入門, ボランティア・市民活動論 1A・2A 異文化コミュニケーション研究 日本の社会と文化	多文化共生各論, グローバル社会と市民活動, ボランティア・市民活動論 1B・2B	ボランティア・市民活動研究 (国内・海外)
アジアに立つ	中国研究 (短期留学) 韓国研究 (短期留学)	スタディーツアー1・4 ボランティア・市民活動実習 (国内・海外)	

(3) 「Do for Others とボランティア・市民活動コース」

1. コースのねらい

本コースの目標は、明治学院大学の教育の理念「Do for Others」（他者への貢献）について体系的に理解することにあります。そのために、①建学以来、本学の関係者が取り組んできた多方面にわたる社会貢献活動の精神（ボランティア・スピリッツ）を、キリスト教や明治学院の歴史から学びます。加えて、学生が現代社会の課題を主体的に解決する能力を習得するため、②学際的な視点で現代の社会課題についての構造的な理解を深めるとともに、③ボランティアや市民活動のなかで生まれてきた思想や手法を実践、理論の両面で学びます。

2. 当該コース科目群を構成する諸科目

①キリスト教と明治学院の歴史への視点を学ぶ

- ・キリスト教の基礎 A・B      ・キリスト教の思想と文化 1～4      ・宗教史 1～4
- ・明治学院研究 1～3      ・現代社会とキリスト教 1～4

②現代の社会課題について構造的に学ぶ

- ・環境とコミュニティの社会学入門 1～2      ・社会福祉学 1～2      ・歴史学の世界 1～2
- ・歴史学 1～4      ・人文地理学入門 1～2      ・人文地理学 1～6      ・文化人類学入門 1～2
- ・文化人類学各論 1～2      ・多文化共生入門 1～2      ・多文化共生各論 1～4
- ・現代平和研究 1～3      ・現代世界と人間 1～6

③ボランティアや市民活動のなかで生まれてきた思想や実践手法を学ぶ

- ・ボランティア学入門 1～4      ・グローバル社会と市民活動入門 1～2
- ・グローバル社会と市民活動 1～2      ・ボランティア・市民活動研究

④【ボランティア・市民活動実習プログラム】

- ・ボランティア・市民活動論（国内）1A
- ・ボランティア・市民活動実習（国内）
- ・ボランティア・市民活動論（国内）1B

※以上の3科目は、春学期に理論を学び、夏休みに2週間の実習を各地の市民活動団体で行い、秋学期に実践成果をプレゼンテーションや報告書にまとめる授業です。

## (4) 「多文化共生コース」

## 1. コースのねらい

「外国語」や「外国人」という言葉を聞いたとき、みなさんがまず思い浮かべる対象は何でしょうか。もしかすると「英語」であり、また「アメリカ人」や「イギリス人」であるかもしれません。現在、日本に中長期的に滞在する在留外国人、つまり旅行者ではなく、生活者として日本で暮らす外国人は、282万9千人に達しています（2019年6月末の時点）。このうち、「英語」を話す人や、「アメリカ人」や「イギリス人」の割合がどれくらいなのか考えたことはありますか。また、約283万人というのは、日本の総人口の約2%に相当しますが、この割合は多いでしょうか、それとも少ないでしょうか。ちなみに、名古屋市の人口が約233万人、大阪市の人口が約274万人です（それぞれ2020年2月1日現在の推計）。さらに、この約283万人に、日本国籍所持者や無国籍者を含めた外国につながる人たちを加えると、数字はさらに大きくなるでしょう。少子高齢化が進む日本社会においては、こうした外国につながる人たちとの共生が喫緊の課題です。多文化共生コースでは、少子高齢化が進むとともに、多言語・多文化化しつつある日本社会で、自ら課題を発見し、解決できる能力を身につけることを目標としています。

## 2. 当該コース科目群を構成する主要科目

- ・多文化共生入門1・2
- ・多文化共生各論1・2・3・4
- ・グローバルシチズンシップ入門1・2
- ・グローバルシチズンシップ各論1・2
- ・サステナビリティ学1・2
- ・グローバル社会と市民活動入門1・2
- ・現代社会研究A・B
- ・必修外国語に加え、3つ目の外国語（あるいはそれ以上）となる外国語科目

## 3. コース科目群のカリキュラム・マップ

「多文化共生入門／各論」を中心に、配当年次に合わせていつでも履修可能

	基礎	応用	発展
言語系科目群	必修外国語に加え、3つ目の外国語（あるいはそれ以上）となる外国語科目		
総合教育系 科目群	多文化共生入門1・2 グローバルシチズンシップ入門1・2 サステナビリティ学1・2 グローバル社会と市民活動入門1・2	多文化共生各論1・2・3・4 グローバルシチズンシップ 各論1・2	現代社会研究A・B



## 4. 「アカデミック・ライティング演習1」の履修について

### I. 授業内容

「アカデミック・ライティング演習1」は、大学でのレポートや論文の執筆に必要な基本的技術を身につけるための、1学期完結のコースです。定員15名の少人数指導で、ライティング課題の添削を軸に、技術の確実な定着を目指します。この科目で学ぶ思考の方法は問題発見に役立ち、ものごとを考える際、間違いを生じにくく、主張の説得力を高めるため、卒業後の仕事や社会生活にも広く役立ちます。

### A ゴール

学問的な文章を書く上で大切なのは、**根拠を示して問いにこたえる「論証」**です。この科目では、全新入生に配布する教科書『アカデミック・ライティング・ハンドブック』を用い、文献資料や調査データを根拠とする論証のパターンを学び、主に次のスキルにつき、大学生として恥ずかしくないレベルを目指します。

- 1 簡潔な主張をもつ段落を単位とする、論文の書き進め方 (paragraph writing)
- 2 既存の研究を自分の言葉と区別し、効果的に示す作法 (引用と出典表示)
- 3 様々なデータベースを用い、情報を集める方法 (資料検索)
- 4 自分の文章を批判的に手直しし、ムダなく読みやすい表現にする方法 (推敲)

### B 授業

教室での作業で、ディスカッションなどを通して資料を消化し、レポートで取りあげるべき問題を見つけ、議論の組み立て方を身につけます。全員が同じ配付資料を用い、一学期の間ひとつのテーマを論じます。好きなテーマについて勝手なスタイルで書けるわけではありません。以下は授業回数を目やすです。

- |                              |    |
|------------------------------|----|
| 1 スキル (上記 A の 1~4) の理解のための実習 | 7回 |
| 2 テーマや資料を理解し、消化するための実習       | 4回 |
| 3 個別指導 (コンサルテーション) を中心とする指導  | 3回 |
| 4 オリエンテーション、そのほか             | 1回 |

### C 課題

上にあげた4つのスキルを身につけるため、宿題として (書き直しをふくめ) **平均 2週に1度ほどの頻度でレポートを提出し**、うち4回ほど添削指導をうけます。500字程度からはじめ、「ファイナル・レポート」(4,000字程度)を書くまでに、テーマをよく理解し、長めのレポートが書けるよう計画されています。

平均的履修者は提出物ひとつあたり執筆に平均4~5時間かけ、**それに見合うスキルを得た**と感じています。ただし、添削指導のあるほかの科目の負担やアルバイト、課外活動なども慎重に考慮した上で履修してください。

#### さらに初心者向け — 「アカデミック・ライティングの基礎」

確実にスキルを身につけたい場合、添削指導のある「アカデミック・ライティング演習1」の履修を薦めますが、**レポートの負担が不安であれば、まず添削指導なしで学ぶ定員75名の「アカデミック・ライティングの基礎」**を履修してみてください。添削に代え、小テストでスキルの理解をはかります。なお、「基礎」の履修には特殊な事前手続きはありません (希望者多数の場合は初回授業で抽選)。

どちらかの科目をなるべく早期 (遅くとも2年次末まで) に履修し、大学生に期待されるレポートのスキルを身につけるよう、強く薦めます。なお、両方履修したい場合は、必ず「基礎」から履修してください。「基礎」は、「演習1」を履修した後は、あるいは「演習1」と同じ学期には履修できません。

## II. 履修手続き

### 1. 事前申込み・抽選制度

「アカデミック・ライティング演習1」の履修希望者は、**明治学院共通科目ガイダンス当日の所定の時間までに**横浜校舎1号館（※教務課や学生課がある建物）3階に設置した箱に「事前申込み用紙」を提出し、抽選を受けてください。これは、例年希望者が定員を上回るための措置です。**（※なお、ガイダンスが実施できない場合の申込み期限・方法等は大学Webサイトあるいは教養教育センターHPにて告知します。）**

### 2. 事前申込み用紙（※ガイダンスが実施できない場合はWebサイトでの申込みになる可能性があります。）

「事前申込み用紙」には、氏名、学籍番号、所属学科、履修希望曜時限（第1希望および第2希望）を指示の通り記入します。個々に確認・訂正する時間がないため、**誤記のあるものは失格**とします。

履修希望曜時限を選ぶ際、各学科が指定する**必修科目と重複する曜時限（または必修科目が今後振り当てられる可能性のある曜時限）**には、絶対に申し込んではいけません。各自持参した時間割にもとづき、「事前申込み用紙」裏面の「要注意曜時限リスト」もチェックした上で、記入してください。

この科目では、**いったん登録すると登録期間B、Cや履修中止期間における履修取消、変更、履修中止などは認めず、出席・提出物ゼロでも、成績証明書に「D」（不合格）評価がつき、GPAに反映されます。**

以下の8つの曜時限枠に開講します。この中からひとつを選択して申し込んでください。

	月曜4限	月曜5限	木曜4限	木曜5限
春学期	3クラス（計45名）	3クラス（計45名）	4クラス（計60名）	3クラス（計45名）
秋学期	4クラス（計60名）	3クラス（計45名）	5クラス（計75名）	4クラス（計60名）

### 3. 抽選結果の発表と履修登録

当選者とクラス割りは、春学期・秋学期クラスとも**春学期の授業開始までに**、学生用ポータルサイト「Port Hepburn」にて、学籍番号により発表します。なお、当選者の「アカデミック・ライティング演習1」の履修登録は教務課が代行するので、**この科目について学生自身による「Web履修登録」は不要**です。各自確認の上、**指定された担当者の初回授業に必ず出席**してください。

なお、「アカデミック・ライティングの基礎」は事前申込み不要です。「基礎」を履修するかは「演習1」の抽選結果を見てからでも判断できます。

【参考：「アカデミック・ライティングの基礎」（75名定員）の開講曜時限】

春学期：月曜4・5限、火曜4・5限、木曜4・5限

秋学期：月曜4・5限、火曜4・5限、木曜4限

※上記各曜時限に1クラス開講します。ただし、春学期の木曜4限は2クラス開講します。

### 4. 「アカデミック・ライティング科目」相談デスク（※ガイダンスが実施できない場合は中止の可能性あり。）

明治学院共通科目ガイダンス当日、履修相談会場に「アカデミック・ライティング科目」デスクを置きます。なお、**学科が指定する必修科目などについては、各自確認**してください（※履修登録状況は、図書館またはY'insのPC端末からも、「Port Hepburn」の「履修登録確認表」で確認できます）。

**※実施する場合、日時・会場等については大学Webサイトあるいは教養教育センターHPにて告知します。**

【警告】この科目に限らず、大学ではウェブ上の情報を含め、**他人の文章やアイデアを自分の名前で発表すること（剽窃）は、不正行為とみなされ、学生の身分にかかわる処分の対象**となります。この科目では不正行為の防止のため、自身のレポートの取り扱いなどについて、何が許され、何が許されないかの規準を示し、これに従うことを初回授業で宣誓させます。

## 5. 「ボランティア・市民活動実習プログラム」の履修について

- 「ボランティア・市民活動実習プログラム」は、1年間を1サイクルとする科目です。ボランティア・市民活動を教室だけでなく、国内各地のボランティア・市民活動の現地で実践的に学ぶことを核とする科目群から成り立っています（※科目の概要については「明治学院共通科目ガイドブック」、および各授業のシラバスを参照ください）。

担当	2020 春学期	2020 夏休み	2020 秋学期
猪瀬浩平 長谷部美佳	ボランティア・市民活動論（国内） 1A	ボランティア・市民活動実習（国内）	ボランティア・市民活動論（国内） 1B

- このプログラムに参加したいと考えているみなさんは、春学期に開講される「ボランティア・市民活動論（国内）1A」をまず履修します。これは、ボランティア実習を行うための事前準備の授業です。この授業では、①ボランティアや市民活動をめぐる基礎知識や実習先で行う活動（インタビューなど）のスキルを学ぶとともに、②教員と相談しながら自分の実習先やテーマを決めます（テーマの例：「地域創生のNPOで活動し、空き家対策の課題と解決アプローチを学ぶ」／「アートという切り口でマイノリティの社会参加の可能性を考えるため、障害者アートに長年取り組んできた団体で活動し、障害当事者やスタッフに話を伺う」など）。  
机に座って聞いているのではなく、ディスカッション・発表・調査・交渉などアクティブラーニング形式の授業になります。
- 「ボランティア・市民活動実習（国内）」は、夏休みを利用したインターン形式の授業です。国内のボランティア市民活動団体（環境、障害者支援、若者就労支援、キャリア教育、多文化共生など）で2週間活動し、自身が設定したテーマについての学びを深めます。
- 「ボランティア・市民活動論（国内）1B」は、夏休みの実習の成果を大学の学びと結び付けるため、教員や他の履修者とのディスカッション、文献講読、実習先への追加調査などを行う授業です。最終的に、プログラムの成果をプレゼンテーションと報告書にまとめます。

### 《重要事項》

- 「ボランティア・市民活動実習プログラム」は、猪瀬浩平クラス（春学期・秋学期ともに金曜4限）と、長谷部美佳クラス（春学期・秋学期とも木曜2限）の2クラス開講されます。
- このプログラムは履修者の選抜を行います。希望するクラスの「ボランティア・市民活動実論（国内）1A」の初回授業に必ず出席してください。ここで書くレポートをもとに、履修者を選抜します。初回授業に臨む前に、各クラスのシラバスを熟読し、授業や実習の内容、注意事項について確認してください。選抜結果は初回授業の翌日13時30分までにポートヘボンで告知します（※なお、授業開始時期がかなりずれ込んだ場合は、選抜方法が変更になる可能性がありますので、新入生向けWebサイトや教養教育センターHPをよく確認してください）。
- 「ボランティア・市民活動論（国内）1A」で履修が認められた場合は、「ボランティア・市民活動実習（国内）」、「ボランティア・市民活動論（国内）1B」も履修することになります。初回授業に参加する前に、秋学期も履修可能であること、必修科目とかけ合っていないことを確認してください。すべての科目について、履修登録は選抜結果を踏まえて、教務課が行います。みなさんが自分で履修登録をすることはできません。

ん。また、一旦履修登録をされると、担当教員の許可なしにはキャンセルをすることができませんので、注意してください。

**※今般の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、授業内容（履修者選抜方法・実習内容を含む）が大幅に変更となる可能性があります。変更が生じる場合は大学の新生向け Web サイトや教養教育センターHP などで告知しますので、履修を検討している学生はよく確認するようにしてください。**

## 6. 秋学期の「基督教の基礎B」の履修について

「基督教の基礎」は、春学期（A）と秋学期（B）それぞれ2単位、年間を通じて4単位分を履修する全学必修科目です。新生の皆さんが受講する授業は、春学期についてはあらかじめ決められていますので、初回の授業に出席する前にシラバスをよく読んでおきましょう。

秋学期については、春学期とは異なる視点から「聖書」や「基督教の歴史・文化」を学びたいなどの積極的な理由があれば、春学期とは異なる教員が担当する授業を履修することも可能です。ただし、他の必修科目との重複がないことが条件となります。秋学期に春とは異なる教員の授業を履修する場合の具体的な方法については、教務課の掲示をよく確認し、間違っても履修漏れがないように注意してください。

## 7. 時間割作成の手順について

まず、必修科目と選択必修科目の時間割表を作成します。次に、それらと重複しない曜時限に選択科目を選び、入れていきます。

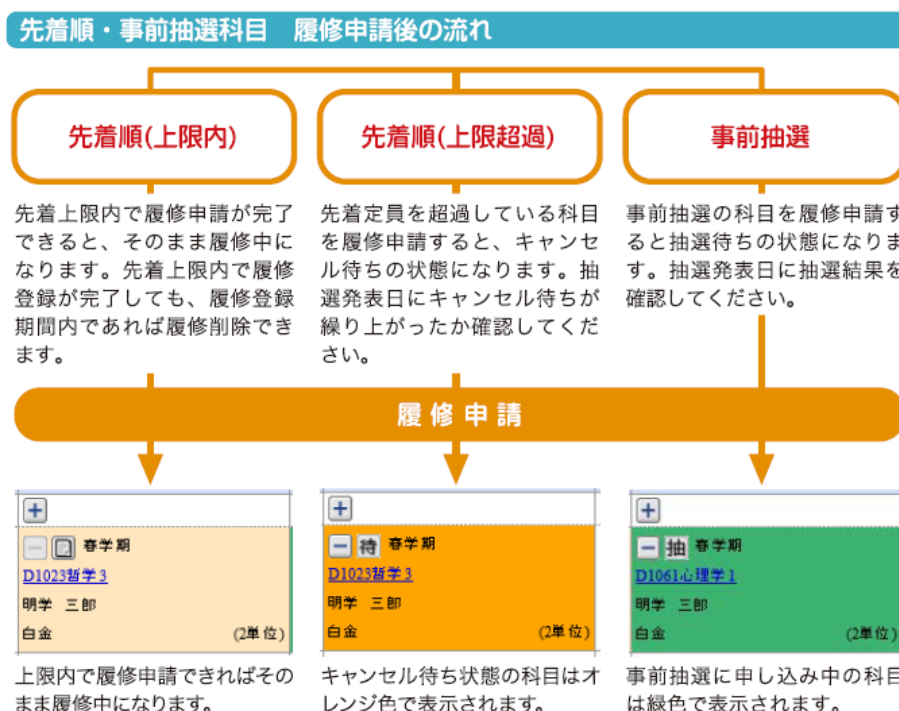


## 8. 明治学院共通科目の履修登録について

原則として 教務 Web 上で授業開始前から申込み形式 となります。(※ただし、一部の科目は初回授業時に履修者を決定します。教務 Web だけでなく、履修を希望する科目のシラバスの「備考」欄や、別途配布される「履修の手引き」等もよく確認してください。)



- 「先着順（上限内）」の科目： 申込みとそのまま履修登録となります。
- 「先着順（上限超過）」の科目： 申込みと、いわゆる「キャンセル待ち」の状態となります。
- 「事前抽選」の科目： 抽選申込期間内に申込みます。締め切り後に抽選をおこなって履修者を決定します。



## 9. 時間割作成上の注意

- (1) 時間割作成後、年間履修上限単位数をオーバーしていないかを必ず確かめてください。  
※年間履修上限単位数は学科によって異なります。
- (2) 許可制の科目で、担当教員から履修を許可された後に教務課が履修登録を行う授業については、皆さんが履修登録を行う時点では、まだ「Web 履修登録画面」には反映されておらず、空欄のままとなっています。履修を許可された者は、その空欄に他の科目を入れないように注意してください。  
※履修登録確認日（後日、ポートヘボン等で告知します）に、正しく履修登録されているかを必ず自分自身で確認してください。
- (3) 授業に出席し、履修登録した（あるいは履修を希望する）科目と担当教員が正しいことを確認してください。
- (4) 履修登録のミスは自己責任となるので注意してください。

## 10. 「明治学院共通科目」履修相談会について（※ガイダンスが実施できない場合は中止の可能性あり。）

この冊子に掲載されている内容のほか、「明治学院共通科目」全般に関する質問を受け付けます。

- ・日時：大学 Web サイトまたは教養教育センターHP にて告知します。
- ・場所：横浜校舎 1 号館 3 階（※教務課や学生課のある建物の 3 階）